会 議 記 録						
会議の名称		決算特別委員会 (全体会)			会議場所 全員協議会室	
					担当職員 鈴木 智	
日時		平成27年9月30日(水)			開 議 午前 10 時 40 分	
					閉 議 午後 1 時 52 分	
出席委員		齊藤委員長、湊副委員長(産業建設分科会委員長)、石野総務文教分科会委員長、ほか委員18名 欠席:明田環境厚生分科会委員長 (西口議長、竹田議員(委員外議員))				
執行機関出席者						
事務局出席者		藤村局長、山内次長、鈴木議事調査係長、三宅主任、池永主任				
傍聴	可	市民名	報道関係者名	執行機関名	議員名	

会 議 の 概 要

10:40

1 開 議

- 〔齊藤委員長 開議〕
- 〔事務局長 説明〕
- 〔議事調査係長 説明〕

2 決算審査

- (1) 分科会委員長報告(委員長報告、質疑)
- 〔石野総務文教分科会委員長 分科会審査報告〕
- 〔馬場環境厚生分科会副委員長 分科会審査報告〕
- 〔湊産業建設分科会委員長 分科会審査報告〕

〔質疑〕

<木曾委員>

病院事業会計で資本金を減少するとされているが、お金の流れはどのようになっているのか。

<馬場委員(環境厚生分科会副委員長)>

収益的収入については、医業収益が17億6506万3千円、医業外収益が3億8331万2千円となり、収入総額では、21億4837万5千円となった。収益的支出については、医業費用が22億963万9千円、医業外費用が1億2175万3千円となり、支出総額では、23億3139万2千円となった。収益的収支差引は、1億8301万7千円の経常損失を計上している。従ってこの経常損失に対処するため資本を取り崩した。公営企業の資本の取り崩しは株式会社の資本の取り崩しとは違い、規模縮小、撤退とはならないものである。資本の取り崩しによ

り病院事業の市民サービスが減退するものではないと分科会では確認した。

< 木曾委員 >

取り崩しは約3億円あるが、資本金は現在どれくらいあるのか。健全経営をされているという認識なのか。

< 馬場委員（環境厚生分科会副委員長） >

健全経営にするために減資をした。9月、11月に医師の補充をされることも報告されており、医師不足による経営悪化は改善される見込みである。

< 福井委員 >

第17号議案は減資と決算が一体のものとして提出されているが、本来は分けて提出されるべきだと考えるがどうか。

< 馬場委員（環境厚生分科会副委員長） >

資本金の減少は可決か否決、決算は認定か不認定での表決となる。

< 議事調査係長 >

資本金の減少と決算が一体として提案され、議決は可決及び認定か否決及び不認定での議決となる。

< 事務局長 >

第17号議案は本来2つの要素を持っているが、関連が強いものであり1議案として提出できると認められているためこの形で提案された。

< 堤委員 >

議案調整時にはどのように把握していたのか。

< 事務局長 >

議案調整時にはすでに1本の議案として提出された。提案されるより前には把握していなかった。

< 木曾委員 >

分けて提案して審査する方がよかったと考える。今後はスムーズに審査できるように委員長からも申し入れていただきたい。

< 齊藤委員長 >

今後このようなことがないようにしたい。

（2）事務事業評価分科会結果（質疑）

< 堤委員 >

敬老事業経費を全面的に見直されたいと評価された経過、内容について説明を。

< 馬場委員（環境厚生分科会副委員長） >

敬老事業を通して高齢者同士が顔見知りになってネットワークができ、安全安心なまちづくりに資していることは評価された。一方、出席状況は十数パーセントの自治会もあるなど参加率が低く事業の公平性に欠けるとの指摘もあった。今後、事業費が増大する懸念もあるためこのような評価に至った。

< 藤本委員 >

ごみ減量・資源化等推進事業経費について、クリーンかめおか推進会議

のあり方を工夫することとはどういう意味か。

< 馬場委員（環境厚生分科会副委員長） >

クリーンかめおか推進会議は自治会の方が委員になっていただいているが、取り組み内容が薄いのではないかと指摘があった。一方、執行部の説明では、市民・事業者・行政で活動することに意味があるものとのことであり議論としては平行線となった。また、各町内会でのごみ出し時の対応などで温度差があるとの意見もある。

< 酒井委員 >

以前も議論した。クリーンかめおか推進会議の事務局は亀岡市にあり、事務も市職員が行っている。この中で市民の主体性をどう発揮していくのかを検討すべきという意見があった。一方で活動実態を踏まえ、市の事業として実施していくべきとの議論があった。

< 奥村委員 >

市の会計基準とは別に事業執行できる形態であることから、環境厚生分科会では事業の執行方法を改善すべきとの意見があった。

< 山本委員 >

安全なわが家の耐震化促進事業経費について、平成27年度は受入の枠を超えたため希望する方が耐震改修を実施できなかった。このことを踏まえ、新たな補助金施策があるのか聞きたい。

< 湊副委員長（産業建設分科会委員長） >

補助金の受入枠が30件であり、申し込みも概ね30件との説明であった。受入枠を超えたという具体的な説明はなかったが、今後、国や府から補助金をとってくるように分科会として申し上げた。また、「新たな補助施策についても検討を深め」と意見を述べたのは、募集の枠を広げることも必要と理解していただければよい。

< 藤本委員 >

新たな取り組みの検討を進めるべきという指摘である。

< 堤委員 >

安全・安心の農産物栽培支援事業経費の土づくりセンターにおける堆肥支援については、経営が不安定でありさらなる支援体制が必要との意見なのか。

< 湊副委員長（産業建設分科会委員長） >

土づくりセンターの経営は非常に厳しいので、立て直すべきとの意見は出たが、ここでいう経営安定とは農・畜産業者に対してのことである。

(3) 自由討議

< 酒井委員 >

資料説明を充実していただきたいと考える。企業経営を経験した方には病院事業会計の減資の意味は分かりにくいのではないかと思う。貸借対照表による説明を求めたがなされなかった。欠損金は平成26年度決算で約6億1,900万円。自己資本金は約7億2,600万円で、議会の議決により約3億7,000万円取り崩している。その結果、自己資本金は3億5,000万円程度になる。さらに市立病院は資本剰余金を

議会の議決を要せずに取り崩すことができるので、約1億2,500万円を取り崩し欠損金の解消に充てた。これは帳簿上のことであり現金の流れはない。市立病院は一般の企業とは違い、信用の基礎は資本金の額ではないとの説明であったが、経営改善をどうしていくのかという説明はなかった。監査委員の意見を引用して分科会の指摘要望としているが、次に減資を提案する際に気を付けるという意味にしかならない。説明が十分でなく、よく理解できていない状況で認めるのはどうかと思う。

< 奥村委員 >

決算特別委員会での審査までに、市立病院から環境厚生常任委員会の中で説明を受けた際に、酒井議員から貸借対照表がないとの意見があった。第17号議案は資本金の減少と決算認定の2つの議案が1つのものとして提出されているが、この方法がよいかは疑問に思う。市立病院の説明では累積欠損をできるだけ少なくして運営していく決意がみられたので賛成とした。

< 酒井委員 >

第17号議案の減資について、決算認定議案も提出されているので貸借対照表が出てくるのは当然である。減資については貸借対照表に沿った説明がなかった。事業規模を変更するかと質問したら「しない」との答弁であった。資本金の留保について質問したら「正解はない」との答弁であった。地方公営企業の経営のあり方について質問したら「これからの話」との答弁であった。なぜ減資するのかと質問したら「病院の運営はすべてマンパワーにかかっている」「市立病院は昨年が開院から10年の区切りなので、心機一転新たなスタートを切りたい」との答弁であった。それでは、モチベーションが下がれば再度減資するのか。このような説明のまま、指摘要望を付して認めることはよくない。これからの病院経営をどうするかについて、説明を受けて納得したうえで減資をするか判断すればよいのではないか。

< 馬場委員 >

曲解があるようである。病院事業について、全体的な傾向として資本金はスリム化していると認識している。環境厚生常任委員会で自主勉強をした際に市立病院は関係資料をすべて提出された。その点はしっかり受け止めるべきであり、客観的なものだと思う。

< 木曾委員 >

市立病院であり公的な赤字補てんをすることは問題ないが、亀岡市の厳しい財政状況の中にあって、今後どのように病院経営していくのかを明確にさせておかないといけない。指摘要望は経営努力されたいなどの文言ではなかったので、分科会でどのように審議されたかを聞いたかった。

< 湊副委員長 >

求めた資料が分科会で出てこないのはどうか。環境厚生分科会の運営はどうなっているのか。

< 馬場委員 >

私は委員から資料提出の要求があれば分科会で可否を諮り運営している。貸借対照表については分科会全体に諮る申し出がなかったので分科会全

体としての意思にはしなかった。また、病院事業の収益費用明細書に記載されている他会計負担金は1億7122万8千円であり、一般会計として負担しているものである。内容としては24時間の救急体制を敷いている病院への負担金のルール分である。それ以外に3億6085万7千円の一般会計負担金があるが、これについては医療体制を保障するためのルール分である。

<堤委員>

決算認定について分科会で踏み込んで審査された馬場環境厚生分科会副委員長に敬意を表したい。各委員から指摘のある内容についても意図は理解できるものであり、今後の決算認定に生かしていきたい。

<菱田委員>

公営企業会計決算の監査委員意見書に「事業規模の変更～議会の議決を経て可能とされたものであること」に十分留意されたいとの文言があるが、その根拠となるものを教えていただきたい。

<馬場委員>

地方公営企業法に基づくものだと考えるが事務局に確認いただきたい。

<菱田委員>

第17号議案は、本来分けて提案されるべきであったと考える。

<酒井委員>

主要施策報告書は充実されたが、一般財源についても記載いただきたい。

～事務事業評価～

<酒井委員>

決算カードを決算審査に間に合うように提出いただきたい。款と節とのクロス表の提出をいただきたい。スタジアム関連について、総務文教分科会で委員から様々な意見が出ていたが、プロジェクトの全体像を示してもらわないと決算審査も予算審査も充実した審査ができない。議会として提出するよう求めてはどうか。

<齊藤委員長>

検討する。

<湊副委員長>

事務事業評価の事業選定は無理をして3項目抽出する必要はない。委員会に任せるべき。

<堤委員>

事務事業評価は民主党政権時代の事業仕分けが基になっている。事務事業評価で選定した項目以外の審査はどうあるべきか。また、抽出する項目数は委員会に任せるべき。現在は政権も交代している。地方議会としていつまでも実施する必要はないと考える。議会改革でもないと思っている。

<奥村委員>

評価を具体的に言い表すことが難しい。数字での評価や評価数を変えるなど工夫したい。

<酒井委員>

環境厚生分科会で審査した「ごみ減量・資源化等推進事業経費」の中に

は多くの事業があり、クリーンかめおか推進会議についてのみ問題になり「改革改善」の評価になった。全体としては廃止の評価になるものが1件もなく「拡充」「改革改善」ばかりになっている点が心配。財政調整基金を取り崩しているので、どこかで見極めて縮小・廃止とする判断が必要。また、スタジアムの全体像を説明することも議会の総意とすることの理解でよいか確認したい。

< 齊藤委員長 >

そのことも含めて検討したい。京都府との調整もある。議長・副議長において精査いただくものとする。

< 酒井委員 >

スタジアム関連について、これまで個別の質疑、一般質問などで分かったことを議会としてまとめることが必要ではないか。

< 堤委員 >

議会全体で考えること、また、議員個人で活動していくことがある。議員活動で納得できないことは、個々の議員で理事者に説明を求めればよい。ここは結論を求める場ではない。意見は述べればよい。

11 : 51

< 休憩 11 : 51 ~ 13 : 30 >

13 : 30

< 齊藤委員長 >

午前中の菱田委員の質問について、資料を配付したとおり確認いただきたい。

(4) 討論

< 酒井委員 >

第6号議案(一般会計決算)に賛成。予算に認めたとおりの執行であり賛成。健全財政とは言えないが、これまでと同じように行行政サービスを実施するなら同じように取り崩しを行わなければならない。事業の縮小・廃止まで踏み込めていないので、今後も大変心配な状況である。そこを議会としてしっかりと意思表示をすべき。

第17号議案(資本金の額の減少及び病院事業会計決算)に反対。減資も決算認定も一括の提案であるが、認めてもらえる前提だとは思えない。非常に問題がある。資本金の額の減少については、市立病院の状況としては、今回は見直しをして留保すべき水準が下がったという説明があるべきと考えていたがなかった。この内容について指摘要望を付して議案を通したとしても、次の減資の機会に生かされるだけであり、今の段階で認めることは適当でないと考え反対とする。

< 藤本委員 >

第 6 号議案（一般会計決算）に賛成。形式収支及び実質収支も黒字決算であるが、基金を取り崩している。2 年連続で単年度収支は赤字であるものの適正に執行された。災害復旧費では繰越明許費を設定しているので、今後も緊張感を持って取り組んでいただきたい。

< 田中委員 >

第 6 号議案（一般会計決算）、第 12 号議案（後期高齢特別会計）、第 13 号議案（土地取得特別会計）、第 15 号議案（上水道事業会計）に反対。

第 6 号議案（一般会計決算）は、衛生費でし尿くみとり手数料が大幅に値上げされている。土木費の公園整備事業で大規模スポーツ施設整備の用地を買収され、地下水調査等も行われている。これらについて、共産党議員団は平成 26 年度当初予算で修正案を提出しており、関連する事業が執行されているため反対とする。

第 12 号議案（後期高齢特別会計）は京都府後期高齢者医療広域連合が均等割で 1,090 円、所得割で 0.05% の引き上げを行った結果、滞納者が 175 人にもなった。短期証も発行されている。長生きしてきた人に対して冷たい制度であると言わざるを得ない。

第 13 号議案（土地取得特別会計）は、平成 26 年度当初予算で修正案を提出した際に言ったとおりであり認定できない。

第 15 号議案（上水道事業会計）は、給水区域の見直し等は大規模スポーツ施設整備関連であり認定できない。

< 福井委員 >

第 6 号議案（一般会計決算）に賛成。予算に対する決算状況として概ね適切な執行であり賛成とする。各特別会計、企業会計にはさまざまな事情があるが確認できているので賛成とする。

< 湊委員 >

第 6 号議案（一般会計決算）に賛成。概ね事業執行できている。11 号及び 18 号台風の災害復旧にも迅速にあたられ、市民福祉の向上に寄与されている。大規模スポーツ施設整備事業は一刻も早くスムーズに完成できるようにしていただきたい。

< 菱田委員 >

第 17 号議案（資本金の額の減少及び病院事業会計決算）に賛成。監査委員から指摘のあったとおり、善処いただきたい。平成 23 年 8 月 30 日の総務副大臣の通知にあるとおり「資本金の額の減少は、住民や議会に対して当該地方公営企業の経営状況や財政状況を十分に説明した上でなされるべきもの」とされており、今回の一括の提案は適切な対応ではなかった。病院事業の経営状況を鑑み、今後このようなことのないよう適切な対応をされることを指摘し賛成とする。

13 : 39

(5) 採決

第 6 号議案（一般会計）	賛成多数（三上、田中、並河、馬場反対）
第 7 号議案（国保会計）	全員賛成

- 第 8 号議案（簡易水道会計） 全員賛成
- 第 9 号議案（休日診療会計） 全員賛成
- 第 10 号議案（地域下水会計） 全員賛成
- 第 11 号議案（介護保険会計） 全員賛成
- 第 12 号議案（後期高齢会計） 賛成多数（馬場、並河、田中、三上反対）
- 第 13 号議案（土地取得会計） 賛成多数（馬場、並河、田中、三上反対）
- 第 14 号議案（曾我部山林会計） 全員賛成
- 第 15 号議案（上水道会計） 賛成多数（馬場、並河、田中、三上反対）
- 第 16 号議案（下水道会計） 全員賛成
- 第 17 号議案（資本金減少及び病院会計決算） 賛成多数（酒井反対）
- 第 18～47 号議案（30 財産区） 全員賛成

（ 6 ）指摘要望

異議なし〔決定〕

（ 7 ）事務事業評価結果決定

異議なし〔決定〕

3 その他

（ 1 ）決算特別委員会委員長報告について

〔正副委員長一任を確認〕

（ 2 ）議会だよりについて

〔正副委員長一任を確認〕

〔湊副委員長 あいさつ〕

〔西口議長 あいさつ〕

〔齊藤委員長 閉議〕

1 3 : 5 2 散会